

議題 1 検討課題における目標の数値化について

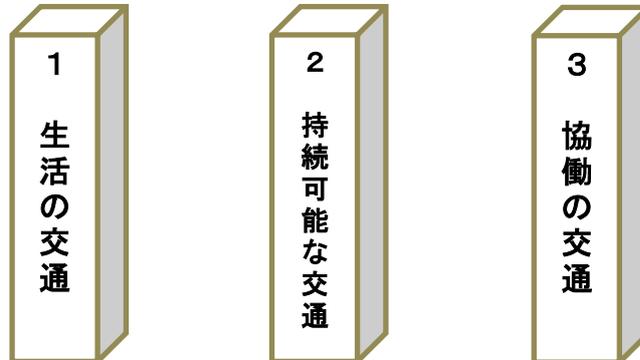
1 今回の見直しにおける3つの柱

8月3日に開催されました第1回川越市市内循環バス検討委員会において、川越シャトルの課題が以下のとおり挙げられました。

- ①人口減少・超高齢化社会への対応
- ②公共交通によるまちづくり
- ③川越シャトルの収支バランス
- ④市民や利用者に親しまれる川越シャトル

この課題を解決するため、さらには、川越シャトルをより良い公共交通にしていくために、今回の見直しに関して3つの柱（理念）を掲げることにします。今後は、この3つの柱を理念として、検討委員会における審議を進めていくこととします。

■ 3つの柱（理念）



1 生活の交通

市民の生活を支える「生活の足」となる交通

2 持続可能な交通

人口減少・超高齢化社会を見据え、将来にわたって持続可能である交通

3 協働の交通

利用者・バス事業者・行政が協働で取り組む交通

2 今回の見直しにおける基本方針（コンセプト）

最初に3つの柱を掲げ、それをもとにした4つの基本方針を以下のとおり定めます。

なお、この基本方針については、3つの柱とそれぞれ関連しています。

■基本方針

①市民や利用者に親しまれ、生活の足として欠かすことができない公共交通を目指します。

⇒ **1 生活の交通** と関連

②川越シャトルの利用者数が減少すると、今後の運行が維持できなくなる可能性があるため、川越シャトルの利用者数をさらに増加させ、継続的な利用が持続的運行につながることを広く市民に周知します。

⇒ **2 持続可能な交通** と関連

③『みんなで支える川越シャトル』の意識を、利用者・バス事業者・行政すべてが共有することとします。

⇒ **3 協働の交通** と関連

④前回の見直し方針に掲げられた、運行距離10km、運行時間30分程度、6m以上の幅員がある道路を運行することを、原則として継続することとします。

⇒ 3つの柱とすべて関連

3 基本目標の設定

今回の川越シャトルの見直しでは、以下のとおり3つの柱や4つの基本方針に基づいた基本目標を設定することとし、この目標を実現するための施策を実施することとします。

■基本目標

<生活の交通>

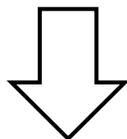
- 1 川越シャトルを「生活の足」として定着させるため、公共施設、駅、病院等の生活関連施設と居住地域を結ぶ、使いやすい公共交通を目指します。

<持続可能な交通>

- 2 川越シャトルの持続的な運行ができるように、利用者数を増加させ、収入の増加を図るとともに、可能な限り効率化を図ります。

<協働の交通>

- 3 公共交通の重要性や『みんなで支える川越シャトル』の意識を利用者・バス事業者・行政で共有できる事業を継続的に実施します。



なお、基本目標は、数値化することで目標がより具体的となり、かつ、今後の検討委員会での審議を進めやすいと思われまますので、次のとおり目標を数値化します。

- ① 利用者数を〇〇%以上増加
- ② 収入を〇〇%以上増加
- ③ 1人当たりの運行経費を〇%程度削減

※基本目標2のみ数値化しており、基本目標1及び3については、現在検討中です。

4 目標の数値化について

① 利用者数を〇〇%以上増加

平成25年10月に路線の見直しを実施され、路線数が減少したことに伴い、利用者数が17.4%減少しました。

今回の見直しでは、路線数やルート等はまだ決定しておりませんが、たとえば、過去最大の利用者数であった平成24年度の数値を用いて数値化することなどが考えられます。

▽平成24年度の利用者数 426,219人(19路線)



※平成25年10月の路線見直しにより、17.4%利用者が減少

▽平成26年度の利用者数 351,958人(13路線)

■利用者数を〇〇%以上増加させるための施策の一例

- ・マイカー自粛デーの設定(月1回)
- ・川越シャトルのリピーターを増やす仕掛け

② 収入を〇〇%以上増加

同じように、平成25年10月路線の見直しにより、平成24年度と平成26年度を比較すると、運行収入が9.6%減少しました。

たとえば、過去最大の収入であった平成24年度の数値を用いて数値化することなどが考えられます。

▽平成24年度の運行収入 38,150,942円(19路線)



※平成25年10月の路線見直しにより、9.6%収入が減少

▽平成26年度の運行収入 34,478,278円(13路線)

■収入を〇〇%以上増加させるための施策の一例

- ・料金体系の見直し
- ・協賛金の募集
- ・車内広告や車体ラッピング等による広告募集

③ 1人当たりの運行経費を〇%削減

現在、13路線を10台のバスで運行しているため、回送距離が長くなり、効率的とは言えない状況となっています。平成30年春に完成予定の新河岸駅駅前広場を十分活用して、可能な限り短距離の路線を設定するなど効果的な運行に努め、運行経費を削減します。

1人当たりの運行経費について、〇%削減（約430円を△△△円に削減）することを目標とします。

[計算式]

$$151,466,224 \text{ 円} \div 351,958 \text{ 人} \doteq 430 \text{ 円} / \text{人}$$
$$430 \text{ 円} \times \text{〇〇〇} = \text{△△△円}$$

■ 運行経費を〇%削減させるための施策の一例

- ・ 利用者のニーズを分析し、効果的なダイヤを設定
- ・ 短距離路線を設定し、効率的なダイヤを設定
→新河岸駅駅前広場（東口・西口）設置に関連した路線の見直し
- ・ 回送距離の縮減等による燃料代等の費用削減

※利用者・バス事業者・行政の3者による協働に関する取り組みを評価する指標は、現在検討中です。